

# と ネットワーク



- ▶ 人口 7,272人
- ▶ 世帯数 1,998世帯 (昭和62年1月1日)
- ▶ 面積 4.45平方キロ

# 原

# 田

**豊かな湧き水と緑に囲まれ  
心がふれあう福祉のまち**

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。5月は吉原、6月は今泉地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

原田地区は、愛鷹山西麓に位置し、豊富な湧き水が今でも流れている地区です。このため、本市の製紙業の集積がみられる地区で、現在十九工場を数えています。原田の製紙業の始まりは、明治二十八年、日本最初の機械抄和紙工場として原田製紙会社が操業してからです。今の三島製紙は、大正二年、滝川製紙を買収して操業を始めました。地区は、東名高速道路から南は工場と住宅との混在地域で、人口密集地域となっています。また、東名から北は、農業地域で、畑・茶畑が広がる地域でしたが、昭和五十一年、富士見台団地の造成後、団地南部に宅地化が進んできています。滝川には鑑石園や永明寺があり、庭園に湧水の流れる風光明媚なところがあります。特に鑑石園の湧水の中には「かがみ石」と呼ばれる石があって、絶世の美女照天姫が姿を映しては身だしなみを整えた、と言われる伝説が残されています。



△ 原田清流子供太鼓の皆さん

おじやます  
おします

**打てば響く人間に**



滝川のせせらぎが大海に流れる様を表現した「原田清流子供太鼓」。三月二十九日に保存会が発足し、子供たちは、ばちを握る手に一層力が入っています。今回は太鼓の練習場におじやました。

「ドンドン...」「そいや」と元気のよい子供の声と太鼓の音が、原田小学校に響きます。原田清流子供太鼓は毎週土曜日の午後、原田小学校を会場に、地域の小学生約三十人が集まって練習を重ねています。昭和五十九年に結成され、最初

は青竹や古タイヤ、神社に伝わる古太鼓などで練習をしていました。ことしの三月、その実力を認められ、自治総合センターから助成金を受けて五基の太鼓を購入しました。

三月二十九日には保存会の発会式が行われ、地域を代表する組織となってきました。

原田清流子供太鼓

「太鼓をたたくと、お母さんにしかられてもすつとする」という現代っ子も一たびばちを持つとその目は真剣。「集中力自己表現力が身に付き、元気のよい子になる」と言う指導者のことばがうなずけます。

「打てば響く人間になるのが、原田清流子供太鼓の心です」と保存会会長の桜井久さんは語ってくれました。原田清流子供太鼓は地域のまちづくりに大きく貢献していると言えるでしょう。



早朝じゃんけんで青少年の健全育成を進める

### 佐野 繁利さん 宇東川3 (46歳)

一月には、静岡県積善会から表彰され、早朝じゃんけんにますます力が入ってきた佐野さんです。



「おはよう、ジャンケンボン。」毎朝、原田小学校周辺では、子供たちの元気な声がこだまします。じゃんけんの相手をするのは佐野さん。子供たちからは「佐野のおじさん」と呼ばれています。PTAやサッカー少年団の活動を通じて「青少年の健全育成は子

供と交流することから」と考えた佐野さんは、昭和五十七年、一人で街頭に立ち、朝の声かけ運動を始めました。

その後、活動に共鳴した有志で「BUM21 (Bring Up Mind 21世紀に向かつて心を育てる)」というグループを結成、現在はメンバーの加藤邦弘さんと鈴木敏昭さんの二人で街頭に立っています。

「子供のためになる」とは、みずから何でもやってみよう」というのが佐野さんの持論。原田地区の子供はあいさつができるようになったといわれ、努力が実を結んでいます。

# まちか

## 我がまちを語る



### 後藤 篤美さん

西滝川町(82歳)

### 湧き水で発展

原田地区を語る時、人と湧き水のかかわりを語らないわけにいきません。原田の湧き水は愛鷹山系と富士山系の両方で、昔は地区のいたるところで湧いていました。中央を流れる滝川は、豊かな清

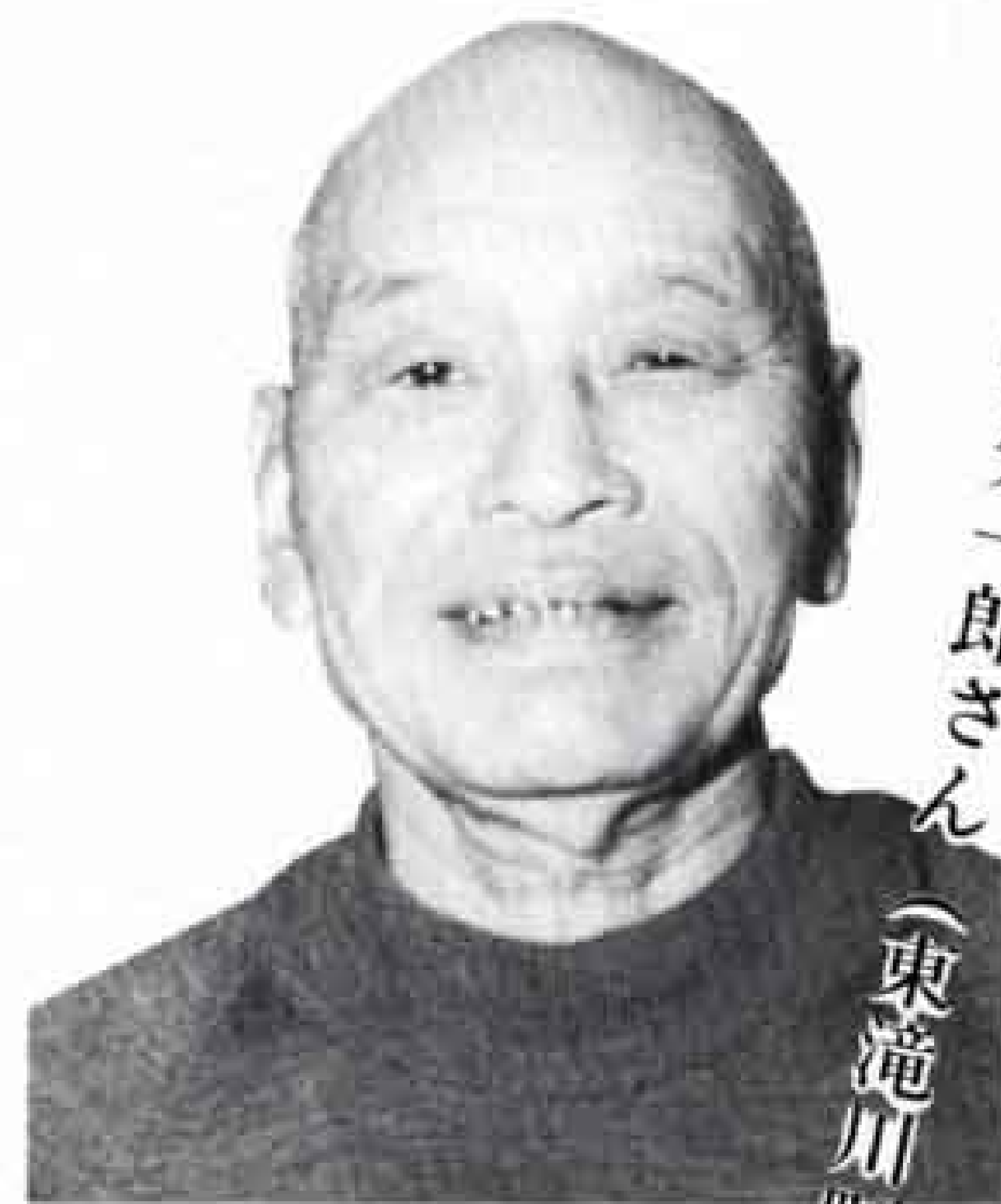
流で、女衆は川ぶちでお米をいんだり、洗濯をしたりして、地域交流の場ともなっていました。川の周辺には水車を利用した、米つき屋があつて、にぎわったこともありました。

その後、水田は製紙会社に変わり、滝川は汚れてしまった時期もありましたが、今は魚釣りができるほどに回復しました。湧き水の量も昔ほどではないにしろ、市内では有数な量だと思えます。

原田の人は水に恵まれて豊かな人が多かったためか、ゆったりしていてもおとなしいと言われます。今でもその名残はあるかもしれません。

## あの人の人こんなこと

### ダンスで健康



碓矢 一郎さん (東滝川町)

三・四年前から健康のため、週に二・三回、原田公民館でダンスを習っている碓矢一郎さん(七十八歳)。受講生の中では最年長者で、テレビでおなじみ「いかりや長介」さんのお父さんです。「ダンスはつま先を使うから、腰が曲がらず、ほけないね。麦踏みじゃあダンスはできないよ。」とユーモアもたっぷり。

### 鍼灸マッサージ師



四条桂子さん(原田町)

七年前、日本にいる母を訪ねて中国からやってきた四条桂子さん。この春、念願だった鍼灸マッサージ師の資格を三年間専門学校に通学し、取得しました。日本語の修得、結婚、二人の子供の出生、専門学校での勉強と来日以来の足跡は、語り尽くせぬものがありました。「夢のようで本当にうれしい」と笑顔はキラリ。

### 絵をかくときは別人



渡辺剛弘君(吉原中島町)

渡辺剛弘君(原田小学校六年)は世界的規模の絵画展「第十九回ユネスコジュニア展」で特賞に選ばれました。幼いころから紙と鉛筆があればおとなしく、今も「絵をかくときは別人のよう」(お母さん)という集中力を発揮します。運動会やお祭りの絵などを月に二・三枚のペースでかいています。

